

会議名	第10回 まちづくりの勉強会
日時	令和元年5月29日 午後7時30分～午後9時30分
内容	<p>[テーマ] 高山の未来のための都市づくり ～30年後(2050年)の高山、何を目指して生きるんや～</p> <p>[参加者] 市民 8名 事務局 4名 計12名 (10代:0名 20代:1名 30代:1名 40代:5名 50代:5名 60代:0名 70代:0名)</p> <p>[勉強会の流れ] ① はじめに(3分) 進行:事務局 ② 「ひだ!高校生会議」の紹介(20分) ③ グループ討議(70分) 若者が住みたいまちは高山で実現できるのか、実現できるとしたらどんなふうにしたら良いかという ことをテーマに、各グループで討議 ④ グループ別発表(15分) ⑤ 意見交換(10分) ⑥ おわりに(2分)</p> <p>[グループ別発表] 【グループ1】新たな要素や発想、視点(ソフト面) ・高校生会議の内容を深めて、考えてみた。 ・<b>駅東</b> 図書館、古い町並がある。 <b>ゆったりとした時が流れる高山</b> ・<b>駅西</b> 開発が進んでいる。複合施設があると良い。いろんな人が集まれる場所が欲しい。 <b>活発に人と情報が行き交う高山</b> ・今ある建物をどう活用していくか考えることが大事。 ・駅を中心に、交通手段を考える。(レンタサイクル等) ・地域通貨を活用できないか。 ・アスモの2階を大人と若者が情報交換や交流ができるような場にした。 ・「心豊かに 表情豊かに 人・コトに出会う」</p> <p>【グループ2】他所にあるが、高山には無いもの(ハード面) ・公園に特化して考える。 ・<b>ターシャテューダー的な公園(庭園)</b> 郊外の土地を市が提供して、市民有志が30年かけて、一から手作りで作り上げていく。 いろんな人が立ち入って、いろんなことで使ってもらおう。(蜜を取ったり、絵を描いたり。) ・<b>エコミュージアム</b> 既存施設を有効活用し、町全体が公園、博物館となるよう、更に磨き上げる。 図書館の前は芝生公園に、宮川沿いは歩けるように… 施設をつなぐ道も公園の一部。 ・川西と川東で暮らし方を変えてみてはどうか。 ・川東は、車社会から脱却する。駐車場を作らず、公共交通機関で郊外の駐車場まで行き、そこから自分の車で移動する。 ・ストレスなく人が移動できる術を考える。</p> <p>[全体ディスカッションでの主な意見] ・公共交通機関も含め、移動手段について考える必要がある。 駅というものに、今までとは違う価値観が出てくる。 ・30年後に高山が残るために、30年かけて何かに取り組むことが大切。</p>

- ・ふたつの表情を持った高山にしていく必要がある。

東側 今あるものを常に生かす。

西側 既存のものに捉われず、新たな形を作っていく。

[アンケートより抜粋]

- ・高校生会議はとてもアイデアが豊富だと思った。その内容を受けて、駅周辺の展望について意見を出し合うことができた。
- ・市民や民間から自由な発想をどんどん生み出し実現していくことが大切だと思った。
- ・ターシャテューダー的な考え方、エコミュージアムという発想は新たな見方の発見になった。

[まとめ・次回について]

- ・今回の内容を具体的な提案として深く掘り下げ、第2クールのまとめとし、ひとつの結論とする。
- ・第11回は、令和元年6月26日（水）19：30～21：30 市役所にて。